

防災ウォーキングコースを設けた地震・津波避難支援マップの効果に関する研究

徳島大学 学生員 ○矢川 裕貴 徳島大学大学院 正員 田村 隆雄
徳島大学大学院 正員 武藤 裕則

1. はじめに：災害時の適切な避難行動を促すためには、地域に応じた信頼性の高い情報を提供する必要がある。徳島大学では2011年～2012年に徳島市の応神地区と津田・新浜地区を対象に地震・津波災害時の避難場所・経路、危険箇所等を記載した地震・津波避難支援マップを作成した。しかしマップには載せきれない有用な情報もある。本研究では、徳島市勝占東部地区を対象として作成した避難マップについて、マップ作成の効果とマップに載せきれない情報を収集するために設けた防災ウォーキングコースの効果について考察する。

2. 地域の課題：徳島市勝占東部地区を対象に地震・津波避難支援マップの作成を行った。同地区の課題を抽出するためにマップ作成ワークショップ(以下、WSと示す)開催直前に住民を対象に避難に関するアンケート(現住所、避難先、避難経路)を行った。図1は地区北部の論田町・大原町外籠域で挙げられた避難先を示す。141世帯中88世帯(全体の60%)が論田小学校を避難先と挙げた。図2は地区南部の大原町域で挙げられた避難先を示す。294世帯中250世帯(全体の90%)が運転免許センター(老朽化のためH26に移転予定)を避難先としていた。老朽化する避難場所に集中するという課題が明確になった。

3. 地震・津波避難支援マップ：WSは徳島市勝占地区の勝占東部コミュニティーセンターで、勝占東部コミュニティー協議会、徳島市危機管理課、徳島大学教員の約30名が参加して、2012年7月から10月にかけて実施された。最初の2回のWSで共通認識の醸成、避難場所の候補と避難経路の書き込みを行った。その次に「まち歩き」を行って詳細情報を収集した。次の2回のWSではまち歩きで得た情報を基に情報の誤りや過不足を修正、避難経路の見直し、危険箇所と主な交差点と道路と橋梁の名称の書き込み、防災ウォーキングコースの記載を行った。最終回はマップレイアウトの調整を行い、2012年

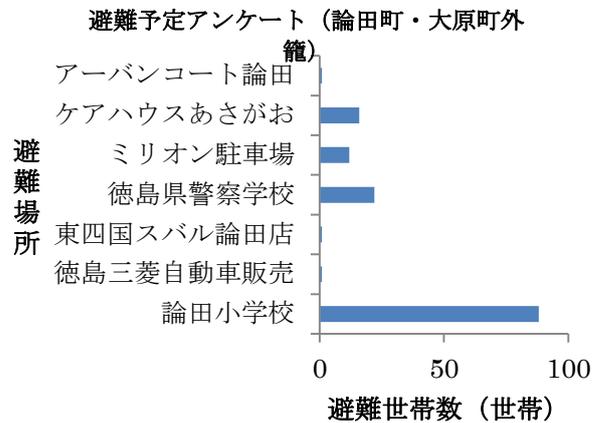


図1 論田町・大原町外籠域の避難場所 (WS前)

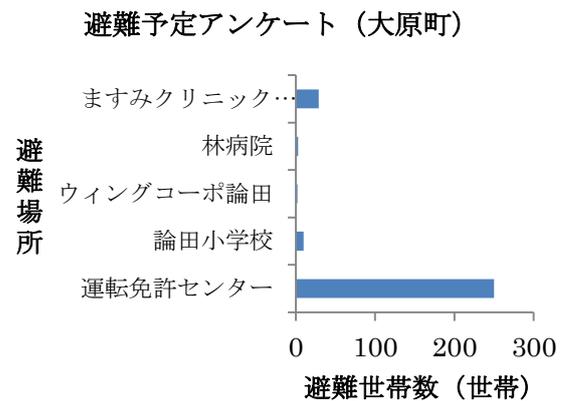


図2 大原町域の避難場所 (WS前)



図3 完成した避難支援マップ (論田町・大原町外籠)

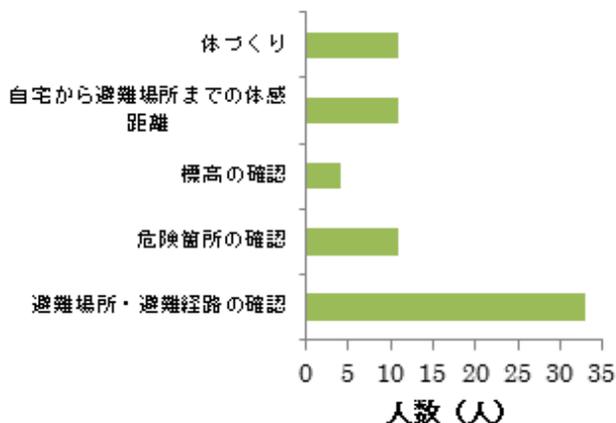


図4 防災ウォーキングコースの利点

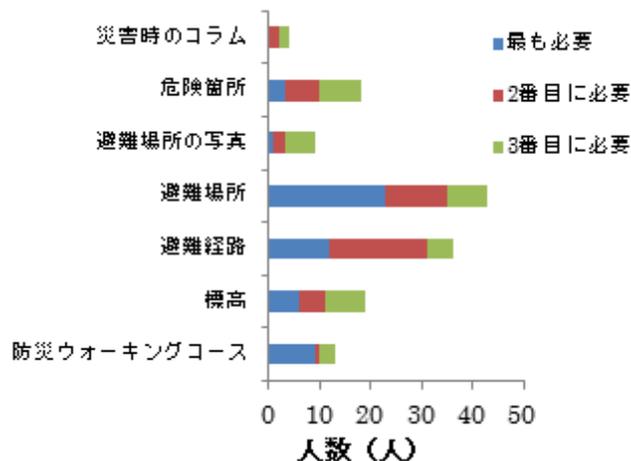


図5 マップに必要な情報

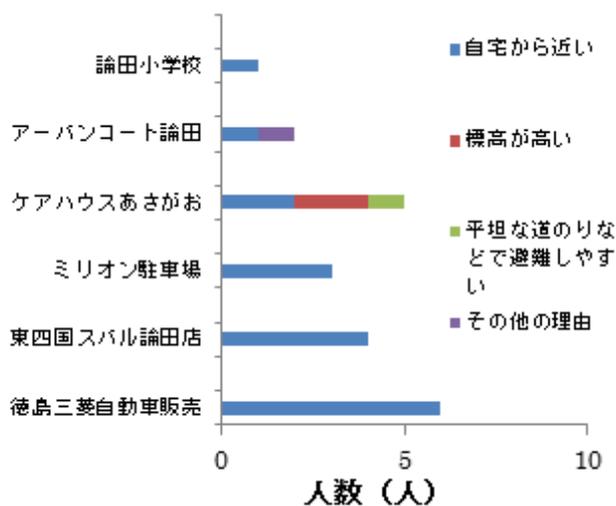


図6 避難場所と選択理由 (論田町・大原町外籠)

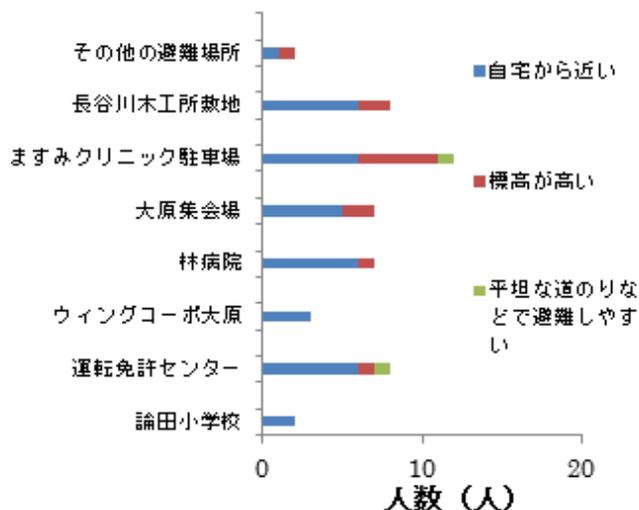


図7 避難場所と選択理由 (大原町)

10月に図3に示す勝占東部地震・津波避難支援マップが完成した。

4. マップと防災ウォーキングコースの効果：マップ完成後、勝占地区住民に防災ウォーキングコースを歩いて貰い、避難マップとウォーキングコースに関するアンケートを実施した。回答者数は64人であった。図4～図7に主な質問とその回答を示す。図4を見ると、防災ウォーキングコースの長所として最も多かったのは「避難場所・経路の確認」であって、その次が「危険箇所の確認」「自宅から避難場所までの体感距離」であった。図5を見るとマップ上に防災ウォーキングコースを必要としている人は少ない。情報の確認手段としてウォーキングコースの長所は理解され、その効果は高いと考えられるが、マップ上に記載する事項としては求められていない。これは他の情報が避難に直結する情報であるのに対して、ウォーキングコースそれ自体は避難情報ではなく、閲覧者に何に役立つのか分かりにくいという独特の理由が原因でないかと思われる。図6、図7に示した避難場所に関するアンケート結果をWS前と比較すると、避難場所が複数に分散しており、自宅の近くや標高の高い避難場所を避難先として選んでいる人が多い。

6. まとめ：「地震・津波避難支援マップ」を作成することにより徳島市勝占東部地区の防災上の課題の1つを解決することができた。また初の試みとして防災ウォーキングコースをマップに掲載した。避難場所・経路、危険箇所の確認など、一定の効果を確認することはできたが、ウォーキング・コース自体は防災情報ではないために、記載方法を工夫する必要があると思われる。最後に今回の避難支援マップ作成では徳島市勝占東部コミュニティー協議会の皆様に大変お世話になりました。ここに感謝の意を表します。